

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K17698

研究課題名（和文）スペイン語コロケーション教材開発に向けたスペイン語と英語の対照研究

研究課題名（英文）Contrastive study between Spanish and English for the development of Spanish collocation materials

研究代表者

蔦原 亮 (TSUTAHARA, Ryo)

九州大学・言語文化研究院・准教授

研究者番号：90792432

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：スペイン語の最頻出動詞とその対応関係にある英語の動詞のコロケーションをコーパスを用いて収集、分析を行った。そして、一連の分析から得られたデータ、知見を反映させたスペイン語の最頻出動詞の使用法に関する教材を開発した。このコロケーション教材は今後、フォーマットを整えたうえで、一般に公開することを予定している。

研究期間中には九本の論文を執筆した。これらの論文では特に、最頻出動詞の脱意味化用法を取り上げ、その使用実態、語彙記述、ならびに言語教育における重要性を指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

話し言葉、そしてフォーマルな書き言葉であっても、その大半は少数の最頻出語彙の繰り返しからなることは広く知られている。このことは、最頻出語彙の学習上の重要性を示す。本研究はスペイン語における最頻出語彙の使用実態を記述するものであった。そして、ほぼすべての動詞において、実際と辞書や教科書における説明との間に齟齬がみられた。本研究の主たる意義は、往々にして高度に多義的である最頻出語彙について、どの用法が特に重要であるのかを明らかにした点にある。

研究成果の概要（英文）：Spanish collocations formed by most frequent verbs and their corresponding English verbs were collected and analyzed. I then developed an educational material on the usage of the most frequent Spanish verbs, reflecting the data and findings obtained from this series of analyses. This collocation material will be formatted and made available to the public in the future.

Nine papers were written during the research period. These papers focused in particular on the desemantization of the most frequent verbs, pointing out their actual usage, lexical description, and importance in language teaching.

研究分野：スペイン語学

キーワード：コロケーション 最頻出語 脱意味化

### 1. 研究開始当初の背景

英語で beer という語を聞けば、多くの母語話者は drink という動詞を思い浮かべるだろう。コロケーションとは beer と drink のような、自然かつ特徴的な連語、共起関係である。近年の外国語教育においては、表現力の向上という観点から、コロケーションを指導することの重要性が指摘されることが増えてきている。例えば、日本人英語学習者のおかしやすい誤用に、「強い・激しい雨」を strong rain と訳出するというものがある（正しくは heavy rain）。このことは、自然な表現力を習得するためには、語について、辞書的な意味だけでなく、どういった語と特徴的に結びつくのかというコロケーションに関わる性質も伝えていく必要があることを示唆するものである。コロケーションという用語、概念はコーパス言語学の枠組みで提唱されたものである。こうした研究 (Sinclair et al. (2004) 等) の成果は外国語、特に英語教育へ応用されており、コロケーションを扱った教材 (McCarthy & O'Dell (2005)、クリストファ・バーナード (2010) 等)、や辞書 (McIntosh et al. (2009) 等) として学習者に還元されている。

### 2. 研究の目的

言語活動の大部分は最頻出語の度重なる使用により構成されている。最頻語の中でもとりわけ多義・多機能的な動詞をコロケーションの観点から、その使用実態を記述することでスペイン語における動詞の働き、ならびにスペイン語学習への還元を目的とする。より具体的には、スペイン語の最頻の 501 の動詞の形成するコロケーションのパターンを英語における対応関係にある動詞のそれと比較、対照する。

また、上記の分析から得られた知見を基にスペイン語動詞の語法の教材を作成することも本研究の主たる目的である。

### 3. 研究の方法

対象とする 501 の動詞と英語におけるカウンターパートの動詞の特徴的な共起語を、コーパスを用いて抽出し、それらを意味・機能に基づき分類する。「特徴的な共起語」であるが、使用したコーパスに搭載されているコロケーション抽出機能、wordsketch を使用し、目的語、副詞、形容詞、分詞等、統語カテゴリー別に抽出した。分析に使用したコーパスは以下の大規模コーパスである。こうした大規模コーパスを使用することで、コロケーションの網羅的な収集を目指した。そのうえで、それら最頻の共起語を意味、機能別に分類し、動詞と共起語の意味上の親和性を考察した。その後、分析から明らかになったコロケーション上のパターン、親和性の違いを比較、対照し、両者の間の異同を明らかにした。

本研究では以下のコーパスを使用した。

スペイン語: European Spanish Web 2011 (eseuTenTen11)

Tokens	2,343,829,757
Words	2,021,633,644
Sentences	92,477,337

Paragraphs 47,345,418  
Documents 4,374,128

英語: English Web 2015 (enTenTen15)

Tokens 15,411,682,875  
Words 13,190,556,334  
Sentences 688,989,861  
Paragraphs 277,665,860  
Documents 33,655,541

いずれも web コーパスであり、オンライン上の多様なジャンルのテキストからなる。この性質により、両言語のコロケーションに関する全般的な知見は得られた。しかし、今回の研究から、抽出したコロケーションの文体上の特徴は捨象されたともいえる。この点は今後の課題としたい。

#### 4. 研究成果

対象とする 501 の動詞と英語におけるカウンターパートの動詞間のコロケーション上の異同が明らかになった。これらの研究成果を教材としてまとめ、本学のスペイン語教育に還元している。以下に教材のサンプルを提示する。

##### Poner 使用難易度ランキング 1 位

派生名詞

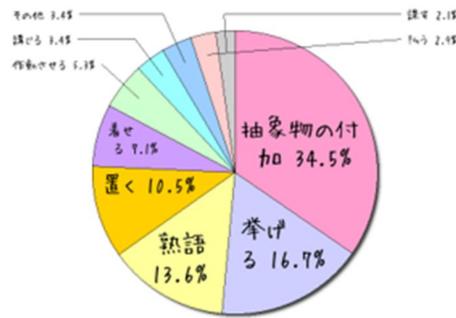
	yo	tú	él	nosotros	vosotros	ellos
現在	Pongo	Pones	Pone	Ponemos	Poneís	Ponen
点過去	Puse	Pusiste	Puso	Pusimos	Pusisteis	Pusieron
線過去	Ponia	Ponias	Ponia	Poniamos	Poniais	Ponian
未来	Pondré	Pondrás	Pondrá	Pondremos	Pondréis	Pondrán
過去未来	Pondría	Pondrías	Pondría	Pondríamos	Pondríaís	Pondrían
接続・現在	Pongas	Pongas	Pongas	Pongamos	Pongáis	Pongan
接続・過去	Pusieras	Pusieras	Pusieras	Pusieramos	Pusierais	Pusieran
命令		Pon	Ponga		Poned	Pongan

現在分詞	Poniendo
過去分詞	Puesto

##### 概要

Tsutahara, Ryo. (2019). *Medir la dificultad léxica de verbos transitivos Los casos de poner, tomar, llevar, dar y sacar.*によるとスペイン語の他動詞の中で最も複雑な、日本語母語話者にとって難しい動詞です。英語に訳されるときも、put だけでなく様々な動詞に翻訳されるので、英語母語話者にとっても難しい動詞と言えるでしょう。グラフに示したように、ともかく語義が多い。そして抽象的なニュアンスがかなり強いので、この動詞を使いこなすのは並大抵のことではありません。Poner を見ると脊髄反射的に「置く」と解釈する学習者は多くいますが、これは戦略としてあまりうまくありません。Poner がこの意味になるのはせいぜい、10 回に 1 回のことです。こういう多義的な動詞を正しく理解し、使いこなすコツは具体的な定義をしようと思わないことです。むしろ、「何かしらを加える動作を表す動詞」くらいにふんわりと覚えておく方がいいです。厳密な定義をしないことで、文脈や目的語のタイプに応じて臨機応変にこの動詞を預けるようになるのではないのでしょうか。

## Poner の用法内訳



### ① 抽象物の付加 英・put, set, place, etc.

いきなり日本語にしづらい語義です。Poner の最もよく使われる語義、それは「抽象物の付加」です。具体例を見た方がわかりやすいので、とりあえず、類出のパターンを見てみましょう。

poner fin a	put an end to, finish	poner límites a	set, place, put limits on
poner el nombre a	put name	poner los ojos a	put an eye on
poner énfasis en	put, place emphasis	poner la nota a	grade
poner punto final a	put an end to, finish	poner precio a	set a price on
poner el acento	put, place emphasis	poner comentario	comment, leave comment

例えば poner fin a というのは「～に終わりを加える」ということで、「～を終わらせる」という意味です。英語でも put an end to と似たような言い方をします。Poner el nombre a は名前を人や物に加える、付けるわけですから、「名前をつける」でしょう。日本語では「～を強調する」という言い方をしますが、スペイン語や英語では poner, put を使って「強調を加える」つまり、poner énfasis, put emphasis という言い方をします。このように、西・英語は日本語ではあまり使わない「抽象物の付加」という語義を様々な形で用います。日本語にこういう言い方がほばない以上、これは意識して使っていく必要があります。

各動詞のコロケーションを記述する中で、脱意味化した動詞の使用実態はとりわけ興味深く、教育上重要であることも明らかとなった。脱意味化とは、動詞が本来の意味の大部分を失った結果、助動詞や英語における be 動詞のような働きをするようになる現象を指す。

別紙にまとめた「主な研究成果」はいずれも様々な動詞の脱意味化を詳細に検討し、その指導法を提案したものである。

とりわけ、Tsutahara (2022) Desemantización verbal desde la perspectiva de la enseñanza de ELE は五年にわたる本研究の集大成として位置づけられるものである。本論文ではスペイン語における最頻 20 の動詞の大半が脱意味化すること、脱意味化用法の使用頻度は本来的な用法と比べて引けを取らない、場合によってはそれ以上の頻度で用いられることを示し、その重要性を指摘した。そして、各動詞の脱意味化用法の具体例、英語におけるカウンターパートを示した。また、脱意味化用法における動詞は強固なコロケーションを形成する傾向があることを報告し、トップダウン型の指導が有効であることを主張した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 TSUTAHARA Ryo	4. 巻 2020
2. 論文標題 Un estudio comparativo de ir y go como verbos semicopulativos	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 HISPANICA	6. 最初と最後の頁 51～77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4994/hispanica.2020.51	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Tsutahara Ryo	4. 巻 -
2. 論文標題 Sobre el verbo echar como verbo de apoyo	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studia romanica	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 TSUTAHARA Ryo	4. 巻 2019
2. 論文標題 Medir la dificultad lexica de verbos transitivos Los casos de poner, tomar, llevar, dar y sacar	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 HISPANICA	6. 最初と最後の頁 45～70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4994/hispanica.2019.45	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 TSUTAHARA Ryo	4. 巻 2018
2. 論文標題 Las colocaciones “verbo de apoyo + nombre eventivo”: un estudio comparativo espanol-ingles	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 HISPANICA	6. 最初と最後の頁 27～51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4994/hispanica.2018.27	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 TSUTAHARA Ryo	4. 巻 14
2. 論文標題 Una clase sobre los usos de los verbos habituales basada en un indice marcador de la dificultad de aprendizaje	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Foro de profesores de E/LE	6. 最初と最後の頁 365-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryo Tsutahara	4. 巻 13
2. 論文標題 Ensenanza de la colocacion basada en la analogia del ingles	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Revista Foro ELE	6. 最初と最後の頁 291-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryo Tsutahara	4. 巻 61
2. 論文標題 Las colocaciones “verbos de apoyo + nombres deverbales/eventivos” en espanol -Estudio prospectivo para su ensenanza en ELE-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Hispanica	6. 最初と最後の頁 23-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsutahara Ryo	4. 巻 5
2. 論文標題 Desemantizacion verbal desde la perspectiva de la ensenanza de ELE	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 RILEX. Revista sobre investigaciones lexicas	6. 最初と最後の頁 119 ~ 147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17561/rilex.5.1.6386	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 蔦原亮
2. 発表標題 外国語教育に向けた語彙記述 tomar を例に
3. 学会等名 日本イスパニヤ学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 蔦原亮
2. 発表標題 現代スペイン語における語形成 新語の語源に着目して
3. 学会等名 日本ロマンス語学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 蔦原亮
2. 発表標題 譲渡・付加を表す動詞とその慣習表現
3. 学会等名 日本イスパニヤ学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tsutahara Ryo
2. 発表標題 Desemantizacion verbal desde la perspectiva de la ensenanza de ELE
3. 学会等名 InLexico 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鳶原亮
2. 発表標題 軽動詞としての echar コロケーションの観点から
3. 学会等名 日本ロマンス語学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳶原亮
2. 発表標題 擬似連結動詞としての ir と go に関する対照研究
3. 学会等名 日本イスパニヤ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TSUTAHARA Ryo
2. 発表標題 Una clase sobre los usos de los verbos habituales basada en un indice marcador de la dificultad de aprendizaje
3. 学会等名 XIII Foro de profesores de E/LE (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鳥越慎太郎 鳶原亮
2. 発表標題 ポルトガル語の -dor, -ente 形容詞の关系的用法 スペイン語との対照
3. 学会等名 日本ロマンス語学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鳶原亮
2. 発表標題 難しい動詞・簡単な動詞 スペイン語他動詞の解釈難易度測定の試み
3. 学会等名 日本イスパニヤ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 TSUTAHARA RYO
2. 発表標題 Ensenanza de verbos polisemicos basado en corpus -en el caso de "ECHAR" -
3. 学会等名 Jornadas de profesores de ELE en Hong Kong (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳶原亮
2. 発表標題 教材開発に向けた西・英語の軽動詞に関する対照研究 コロケーションという観点から
3. 学会等名 日本イスパニヤ学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryo Tsutahara
2. 発表標題 Una clase sobre los usos de los verbos habituales basada en un indice marcador de la dificultad de aprendizaje
3. 学会等名 Foro de Profesores de ELE (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------